

氏名	なががわ かなこ <b>中川 可奈子</b>
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第790号
学位授与の日付	平成28年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 造形科学専攻
学位論文題目	<b>チェコスロヴァキアのグラフィックデザインに関する研究－ 映画ポスターとマッチラベルを中心に</b>
審査委員	(主査)教授 中野仁人 教授 櫛 勝彦 教授 並木誠士 准教授 西村雅信

### 論文内容の要旨

本論文「チェコスロヴァキアのグラフィックデザインに関する研究」は、第1章から第5章により構成されている。

「はじめに」で本論文の目的と、チェコスロヴァキアのグラフィックデザインの具体的事例の検討を、デザイン分析手法で進めるといふ本論文独自の研究方法を明らかにしている。

「第1章 チェコスロヴァキアの社会的背景」では、社会主義政権下におけるグラフィックデザインの発展について、社会的要因と時代背景を照らし合わせながら言及している。国家としての体制の変遷と、チェコの民族復興運動や伝統的な人形劇等に触れた上で、当時のグラフィックデザインの制作システムについて明らかにする。

「第2章 チェコスロヴァキアのグラフィックデザイン」では、1920年代から60年代にかけてのチェコスロヴァキアにおけるアートとグラフィックデザインの様々な状況に着目し、事例をあげながらその変遷をたどっている。

「第3章 チェコスロヴァキアの映画ポスター」では、映画ポスターを手がけた代表的なアーティストの活動について綿密に調査し、制作の表現、手法を明らかにした。また、映画ポスターのデザインと映画の内容の関係について分析し、映画の製作国が作ったオリジナルの映画ポスターと比較することで、チェコスロヴァキアの映画ポスターのデザインの特徴を捉えた。さらに、1958年～1970年に制作された544点の映画ポスターを抽出、分類し、技法を分析した上で、とくに独自の発展を見せたコラージュ技法について、その特徴を明らかにした。

「第4章 チェコスロヴァキアのマッチラベル」では、第二次世界大戦後から1992年までに発行されたマッチラベルを対象に、国の政策や公衆衛生、国営企業の広告、自然、芸術、文化などのテーマの分類、シリーズ展開の方法、さらに色彩や印刷技術について詳細な分析をおこない、マッチラベルのデザインの特徴を明らかにした。

これらの検証をもとに「第5章 結論」では、チェコスロヴァキアのグラフィックデザインの特徴と社会的役割を考察している。1960年代の映画ポスターは、作家達が映画を独自の感性で表現しており、これは、国家が映画ポスターのデザインに高い芸術性や伝統を要求し、その国の方針を作家が理解して制作した結果であると結論づけた。一方、ソ連の支配下におけるチェコスロ

ヴァキアのマッチラベルは、共産主義をアピールするものであったが、そのいっぽうで暮らしの知恵や豊かな伝統文化、次代を担う子供達の教育をテーマにしたラベルが多く見られた。1960年代に発行されたマッチラベルは、芸術性の高いデザインや、素朴な図柄、豊富なシリーズ展開、色彩と印刷に対する細かな工夫によって、生活必需品、国家の社会主義的な宣伝媒体としての機能を超えて、国民のライフワークや娯楽となる蒐集活動の対象となっていたことを示した。そして、社会主義政権下におけるアーティストの姿勢や考え方と、日常生活におけるデザインの芸術性が国民の教育効果や意識改革につながる可能性を明らかにした。

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、社会主義政権下におけるチェコスロヴァキアのグラフィックデザインに着目し、特に公共の場に掲示されていた映画ポスターと、すべての国民の日常生活で身近にあったマッチラベルのデザインを取り上げ、チェコスロヴァキアのグラフィックデザインの特徴と社会的役割を明らかにしようとしたものである。

近年、かつての社会主義政権下において作成された各国のグラフィックデザインの意義を問い直し、再評価する動きがおこっている。本論文は、商業主義的志向のもとでのデザインとは異なり、抑圧された活動の中でデザイナーたちが果たした役割はどのようなものであったのかという命題に取り組む意欲的な研究である。

また、本論文では、日本国内だけではなくチェコスロヴァキア本国でもまだ研究の途上である分野に取り組み、具体的な事例の検討にデザイン分析の手法を取り入れるという、独自の研究方法を確立している。とくに本学の美術工芸資料館が所蔵するチェコスロヴァキアポスターの現物資料をもとに調査している点は、本学のポスターコレクションを顧みる意味でも貴重な研究である。

本論文が独自の価値を有する第一の点は、グラフィックデザインを製作者、クライアントの側から検証するだけではなく、一般大衆を対象としたものとして捉え、とくに社会主義政権下における人々の志向や社会体制との関係でデザインを検討している点である。

独自性の第二点は、映画ポスターとマッチラベルに見られるモチーフ、色彩、レイアウトなどを細かく数値化した上で、グラフィックデザインの側面から分析することでその傾向と特徴について明らかにした点である。それは、当申請者自身がデザインを実践しているという立場からの調査分析であり、これまでの史論的な観点からは成し得なかった研究である。また、デザインの統計的分析によって、デザイン全体のイメージを客観的に把握することが可能となり、その変遷を具体的に読み取ることが可能となった。

また、本論文は、実物の映画ポスター資料と、本人が収集した膨大なマッチラベルコレクションをもとに綿密な調査分析を積み重ねることにより、社会主義政権下のグラフィックデザインの特質を明らかにした論文であり、その成果が今後の社会主義時代のデザインをめぐる研究に寄与することは明らかである。

上記のように、本論文は基礎的な作業を踏まえて、さらに独自の視点からの考察を展開したものとして、十分評価に足るものである。

なお、本論文の一部は、いずれも申請者の単著である査読付の2論文(①②)としてすでに公表されている。

- ①中川可奈子：「1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスターに関する考察」意匠学会『デザイン理論』第62号、55頁-68頁（2013年）
- ②中川可奈子：「チェコスロヴァキア製マッチラベルデザイン-小グラフィックの中のコミュニケーション」意匠学会『デザイン理論』第66号、31頁-44頁（2015年）